



教育所悟

二年生の生活科の学習で、久々に旭山動物園からモルモットを借りて活動を行いました。飼育員さんから「特別飼育員」に任命された二年生は、大切にモルモットをお世話しました。学習の後半には、一休体験をさせてあげたりするなど、自信をもって活動する姿が印象的でした。学習終了後、飼育員さんが話していた「飼育前と飼育後では子どもたちの目が変わりましたね」との言葉どおり、モルモットの飼育をとおして、二年生自身が大きく成長した実践となりました。
(旭川市立神居東小学校)

No. 145 (令和5年11月1日)

おもな内容

ページ

随想	1
研修講座寸描	2～4
出前講座寸描	4～6
研究室だより	6～7
心に残る授業その88	8
ICT実技研修講座の紹介	8
教育講演会のお知らせ	9
各種お知らせ (iPad貸出し・資料室・Webサイト)	10

随想

「当たり前」のこと



上川教育研修センター

所長 伊東義晃

日本の教職員って、改めてですがスゴイって思うのです。

新型コロナウイルスの感染拡大の時期とも相まって、文部科学省によるギガスクール構想が加速し、児童生徒に端末がいきわたりました。当センターのICT実技講座にも、教職員からの受講申込が相次ぐとともに、タブレット活用に関する出前講座も急増し、その傾向は今年度も続いている状況です。

当センターの講座の一環として研究授業を観る機会がありますが、今では端末が鉛筆やノートと並ぶマストアイテムとなり、「どの教科でも」「誰でも」「すぐ」にでも「使えるICTとして活用されています」。数年前には予想できなかった今の授業風景には、ただただ驚くばかりです。教職員の不断の研修の成果に心からの拍手です。

前述のことと関連し、最近特に気になっていることがあります。生成AIのことです。学校現場にも大きな変化をもたらすといわれており、教職員にとつては、利用の期待とともに不安が入り混じっている状況ではないかと思えます。しかし、タブレットを活用した授業を数年でスタンダード化させたように、これについても同様の状況を創り出していくことでしょう。

教育改革の最前線である学校では、その時々様々な教育課題が出現するたびに、教職員の知恵を結集し、「子どもたちのために」という熱い思いで乗り越えてきました。常にこれからの「当たり前」の教育活動としていくための「当たり前」の取組です。

文科省では、部活動の地域移行やICT活用の推進など以前にも増して学校現場の支援に頑張っているようには思えません。しかし、今如きの取組では、働き方改革や教師不足など喫緊な課題が解消できないことを、学校現場は感じているはず。

日本の学校教育は、大きな蓄積と高い成果をあげてきています。この比類なき日本型学校教育の持続に向け、教育行政を担う方々には、献身的に努力を重ねる教職員を支えるべく、より本気になって実効ある取組を推進していただきたいと切に願うばかりです。

「当たり前」のこととして。

※この執筆にあたりまして、生成AIは活用しておりません(笑)。

本校は、特色ある教育活動の一つとして「田んぼの学校」に取り組んでいます。地域のお年寄りの皆様、PTA、学校が一体となり、田植えから稲刈り、収穫祭が行われます。この活動は、稲刈りまでの生育観察、水中昆虫調べなど、理科などの教科とも横断的に繋がっています。地域への誇りや愛着、社会の一員としての主体的・協働的に行動する力を育てるとともに、児童の興味・関心から主体的な学びと発展する教育活動となっています。

(中富良野町立西中小学校)



センター日誌

8月1日	夏季合同所員研修会
8月10日	上川教育研修センター組合議会
8月16日	研究室夏季集中研・研究協力校打合せ
8月13日	道研連研究発表大会(十勝大会)
9月1日	センターだより第145号発行
11月1日	毎週火曜日 定例研究室会議
※	随時 研修講座講師打合せ会議

1 学校経営Ⅰ 6/6(火)

佐藤 忍 〔上川教育局 義務教育指導監〕
 工藤 亘 (中央小 校長)
 玉井 一行 (高台小 校長)
 片原 俊光 (東陽中 校長)
 鈴木 豊 (名寄南小 校長)

Ⅱ 講師Ⅱ

・学校改善に関わるPDCAサイクルを確実に機能させることで、主体的にチームとして活性化する経営を行いたいと感じました。また、交流する中で、他校の実践例や課題なども評価などをもとに自校として取り組むべきことを明確にした上で経営方針として分かりやすく示す、という目標ができました。



受講者の感想から

研修講座寸描

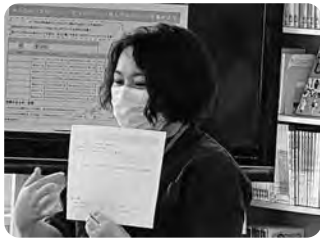
2 読書活動 6/8(木)

大野 昌広 (富沢小 校長)
 萩野 絵美 (永山南中 教諭)

Ⅱ 講師Ⅱ

・生徒の読者意欲に繋がる授業だと思いました。タブレット端末を利用した授業の可能性や大野先生のお話も、最新の話題も盛り込まれており、とても楽しく拝聴いたしました。

・萩野先生の授業は、生徒たちが生き生きと本から感じとったことを発表していて、本を読むことがこんなにも世界を広げてくれるものなのだと感動しました。ありがとうございました。



3 特別支援教育 6/15(木)・7/13(木)

宮越けんじ 〔旭川市教育委員会 特別支援教育専門職〕
 十河恵理子 (西御料地小 教諭)
 佐藤沙弥香 (旭川中 教諭)

Ⅱ 講師Ⅱ

・学校という場で個々の生きる力を育むために、苦手なことや凸凹を少しでも克服させてあげられるように一人一人をきちんと見取り、目標設定をして、日々取り組んでいきたいと思いました。

・子どもの実態把握をするとき「個の資質や能力」と「社会から求められる資質や能力」に分けて着目することがわかりました。他校のよい取組も知ることができたので、自校に持ち帰って生かします。ありがとうございました。



4 学級経営と教育相談 6/20(火)

佐藤 昭彦 〔北海道立教育研究所 研究研修主事〕
 阿部 巧 〔北海道立教育研究所 研究研修主事〕

Ⅱ 講師Ⅱ

・教育相談についてや自己有用感を高める教育活動についてなど、すぐに実践することができると内容でした。子どもたちが自己有用感を高めることができる教育活動を行っていきたいです。

・リフレミシングや、アサーショントレーニングなどで、ものの捉え方、言い方により一層気を配ることの大切さを感じることができました。また、グループでのコミュニケーションや、他グループの発表を聞いて、たくさんの方の気付きをいただきました。



5 幼保小連携教育 7/25(火)

講師Ⅱ

玉置ゆり子 上川教育局

指導主事

野上 大輔

北海道教育大学
附属旭川幼稚園副園長

・小学校側の考えや思いを聞くことができてよかったです。幼稚園側だけではなく、小学校側も同じように交流をもちたい、様子を知らいたいと感じていることが分かりました。どちらの機関も子どもたちがより過ごしやすい環境作りをしていきたいと考えており、実現に向けての勇気をもつことができました。

・架け橋プログラムのねらいについて、「架け橋期」という大切な時間だと改めて実感できました。幼保小の連携教育では小学校の「スタートカリキュラム」を知り、参考になりましたし、興味をもちました。少しずつ「時間の区切り」の必要性や大切なことを子どもたちに伝えていきたいです。



6 道徳科指導 7/27(木)・8/31(木)

講師Ⅱ

水上 丈実

北海道教育大学旭川校
非常勤講師

加藤 紘也

(東神楽小 教諭)

田辺 修司

(北門中 教諭)

・子どもたちが学ぶ内容や学び方が変わる中で、道徳の授業も児童の実態に合わせてねらいや発問を変えていかなければいけないと改めて感じました。子どもたちが教師が求める正解を答えて授業が進むのではなく、互いの意見に対して尋ね合ったり深め合ったりする問いを追求していきたいと思いました。

・導入で児童生徒に今日の授業の必要性や理解をさせることの重要性を感じました。また、そのモデルを見ることができました。また、価値を理解していてもそれをどう実践意欲につなげていくかの指導も大変勉強になりました。



7 国語科指導 7/28(金)・9/7(木)

講師Ⅱ

蒔田 和樹 上川教育局

主任指導主事

蛇名 樹里

(高台小 教諭)

山口 徹也

(東明中 教諭)

・「筋を通す」という視点をもって授業を見ることが、授業づくりのイメージが以前より明確になりました。研究協議もその視点を先生方で共有することで非常に実りのある内容となりました。振り返りシートの作り方や項目一貫性のある授業は流れがとてもよく、児童生徒が自分のやることをしっかりと理解して取り組んでいました。目標と言語活動の整合性をとることの大切さや、「考えを広げる」ということがどのようなことか考えながら意見を交流させるのが大切であることなど、今後の授業に参考になる一日でした。ありがとうございました。



9 学校事務実務 8/2(水)

講師Ⅱ

小田 隼人

公立学校共済組合
北海道支部 年金給付係長

道塚 翔

(上富良野西小 事務職員)

安田 好広

(南富良野中 事務職員)

小海 紘尚

(神楽小 事務職員)

小林 弘幸

(緑が丘中 事務職員)

・事務職員として日々学校や子どもを観察し、課題を見つけ出す重要性が、発表レポートや交流から分かりました。また、共済組合の年金制度は知らないことばかりだったので、勉強になりました。

・他市町村の事務の実態を知ることができ、大変勉強になりました。事務職員全体の課題など市町村の別に関わらず共通の課題があることが分かり、もっとよく交流をしてみたいと感じました。



13 令和の日本型学校教育 8/8(火)

吉田 昌広

北海道教育大学
教職大学院 特任教授

Ⅱ 講師Ⅱ

・個別最適な学び、協働的な学びの実践例として示された授業動画は、イメージをもつことができた。一方、実践する難しさを感じることができた。いろいろな先生方と意見交流でき、よい刺激になりました。ありがとうございました。

・学校の強み弱みを整理する方法、学校を俯瞰の視点から見る方法を学ぶとともに、学校マネジメントの視点で改善することの大切さを学びました。早速実践したいと思います。ありがとうございました。



14 学校・家庭・地域の連携 8/29(火)

Ⅱ 講師Ⅱ

田阪 直也

上川教育局
社会教育指導班主査

小島 紀行

旭川市教育委員会
社会教育課 主幹

浪岡 一

(旭川中 主幹教諭)

・いろいろな立場の話を聞くことができた。考えを伝え合ったりすることができて貴重な時間となりました。

・他市町村の取組がとても参考になりました。また、一般教諭の考え方も聞くことができ、今後の取組の参考となりました。交流の時間が十分にあり、他の参加者の状況を知ることができました。

15 ICTと情報モラル 9/5(火)

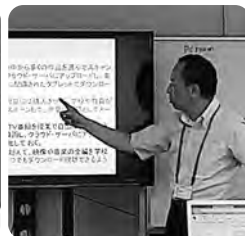
吉野 法行 (風連中 教頭)

前田 佳希 (春光台中 教諭)

Ⅱ 講師Ⅱ

・情報モラルを指導する時に、加害者に焦点を当てるのではなく、その後の二次被害に備えたオーデイエンス教育が重要になってくるということが、とても参考になりました。

・情報モラルについての講義が特に参考になりました。情報モラルについて授業をする時は、個人情報や不適切な内容をアップしないようにということに重きがおかれると思います。不適切な投稿を見た時の行動について指導する必要性を感じました。様々な立場から、どのように行動するか考えさせることが大切だと思いました。ありがとうございました。



宇文小「ICTの活用」 5/18(木)



【講師】長田 夢来広北小 教諭

ロイロノートを活用した授業実践について実技を通して教えていただきました。個人のノートの整理の仕方や共有ノートの活用、近隣校との繋がりなど、様々な観点について学びました。今後の実践に生かしてまいります。ありがとうございました。

(中富良野町立宇文小学校 武田 昂幸)

西神楽中「主体的な学び」へのアプローチとなる実践的内容 5/12(金)



【講師】北村 裕美(緑が丘中 教諭)

講義の中で実際に上川管内で実践されている授業実践を紹介していただき、具体的なICTの活用方法が分かりました。また、先生が視察された愛知県春日井市で実践している複線型授業は、受講後に個人的に動画を視聴したりしたところ今後の授業計画の参考に役立たいと思います。御指導ありがとうございました。

(旭川市立西神楽中学校 下坂 正洋)

出前講座寸描

上教研「ICTの活用」 6/13(火)



【講師：西條 俊介(青雲小 教諭)】
上教研中部地区算数・数学班の研究において、西條先生を講師にお招きし、ICTの効果的な活用方法について、具体的な実践を御紹介いただきました。これからの授業実践や班研究に生かせるものとなり、貴重な学びの機会となりました。
(鷹栖町立鷹栖中学校 松島 善朗)

東川第一小「自己肯定感を育むコミュニケーション」 5/24(水)



【講師：寺田 彩乃(オアシスやく代芸)】
マンガ思考とは何かをワークショップを通して御指導いただき、体的にマンガで気持ちを表現することの楽しさを理解できました。今後の教育活動でどのように活用していくか、更に校内研修で深めていきたいです。ありがとうございました。
(東川町立東川第一小学校 永森麻奈美)

神楽岡小「個別最適な学びと協働的な学び」 6/21(水)



【講師：近田 泰斗(北光小 教諭)】
「個別最適な学びと協働的な学びは、手立てであり、目的ではない。」この言葉を聞いて捉え方が大きく変わりました。紹介していただいた実践例を基に、日々の授業改善へ生かしたいと思えます。御指導ありがとうございました。
(旭川市立神楽岡小学校 上林 詩織)

東中小「主体的・対話的で深い学び」 6/16(金)



【講師：石塚 大輔(美瑛東小 教諭)】
講師の方が、本校の研究主題や職員の一環に沿った内容の講座を計画してくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。具体的な実践例が多く、授業改善に役立つ充実した内容でした。御指導ありがとうございました。
(上富良野町立東中小学校 松岡 政哉)

剣淵中「ICTの活用」 6/30(金)



【講師：伊藤 健治(永山中 教諭)】
講義では、情報活用能力がなぜ今の子どもたちに必要とされているのか、他県や在籍校での実践例を交えながらわかりやすく説明してくださいました。早速次の授業で、できることを試してみたいと思います。ありがとうございました。
(剣淵町立剣淵中学校 川村 忍)

緑が丘小「道徳科指導」 6/23(金)



【講師：伊藤 陽子(正和小 教諭)】
講義の中で、道徳科の授業のポイントを示していただき、道徳的諸価値を理解しながら問いを行うことの大切さを学びました。自分自身の今後の授業の中でも是非意識していきたいと感じました。この度は御指導ありがとうございました。
(旭川市立緑が丘小学校 武田 雄太)

東神楽中「ICTの活用」 7/13(木)



【講師：伊藤 健治(永山中 教諭)】
ICTの活用により、授業を個別最適化させ、協働的な学習の充実を図れることを改めて学びました。今回御紹介いただいた多様な活用方法を、今後の学校生活のあらゆる場面に生かしたいと思えます。御指導ありがとうございました。
(東神楽町立東神楽中学校 西森 加奈)

近文第1小「体育科実技指導」 7/6(木)



【講師：林 裕輔(附属旭川小 教諭)】
器械運動について、補助の仕方や声かけのタイミング、場の設定や子どもたち同士の学び合いの場など、いくつかの工夫をすることで学習の質が向上することを再確認できました。子どもたちの感覚づくりを意識して、今後の授業づくりに役立てたいと思いました。
(旭川市立近文第1小学校 馬場 智章)

知新小「ICTの活用」 7/25(火)



【講師：長田 夢(末広北小 教諭)】
タブレット端末の活用方法を、実践紹介や体験を交えて教えていただきました。御紹介いただいた、授業づくりや学級づくりに繋がる機能やアプリなどはすぐに活用できるものばかりで、大変勉強になりました。ありがとうございます。

(旭川市立知新小学校 長瀬 桃果)

近文第1小「図工科実技指導」 7/19(水)



【講師：木村 文香(新富小 教諭)】
子どもたちの「表現したい！」という意欲を高めることが大切だということに改めて気付くことができました。紹介いただいた絵や版画の指導方法は、今後の授業に生かしていきたいと思います。御指導ありがとうございました。

(旭川市立近文第1小学校 小西 理映)

青雲小「ICTの活用」 8/18(金)



【講師：長田 夢(末広北小 教諭)】
日々、実践されているICTの活用方法を紹介していただき、子どもたちの学びを充実させるヒントをたくさんいただけた。目的や子どもに合わせ活用ができるよう、試行錯誤していこうと思います。御指導ありがとうございます。

(旭川市立青雲小学校 日下 裕太)

音威子府小中「主体的・対話的(協働的)な学びの確立の工夫」 8/18(金)



【講師：小林 悠介(智恵文小 教諭)】
主体的に学ぶ子どもを育てるために、教員が子どもに何をさせたいか丁寧に伝えていくことが大切だと学びました。ポイントとして示していただいた「見通し・振り返りの視点を明確にした」授業づくりに努めてまいります。

(音威子府村立音威子府小中学校 藤田 久嗣)

鳥沼小「ICTの活用」 8/25(金)



【講師：石本 周司(東川小 教諭)】
目から鱗でした。ICTに関する様々な知識のみならず、それらを活用した実践例を伺い、子どもたちの授業での生き生きとした様子が伝わってきました。明日から学んだことを生かします。御指導ありがとうございました。

(富良野市立鳥沼小学校 田村 能子)

布部小中「ICTの活用」 8/23(水)



【講師：志田 智迪(上富良野中 教諭)】
今回の研修はiPadを使つてのICT講座となりました。特に、ジヤムボードの使い方から、Googleフォームを使つてのテスト作成の仕方などは、次の日から学校現場で活用できる内容の講座でした。ありがとうございます。

(富良野市立布部小中学校 開発 智章)

センター研究員による研究授業の様子



上川教育研修センター第19次研究2年次

「求められる資質・能力を育む学習指導の在り方」 ～指導と評価の一体化を目指す学習評価～

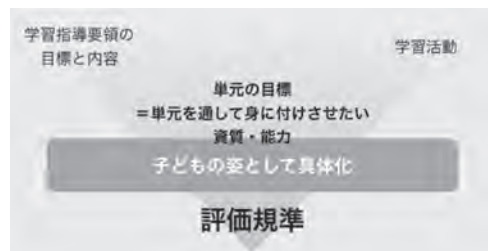
研究主題の解明に向け、上川教育研修センター研究員が授業を行いました。

研究員2年目 旭川市立新富小学校 因幡 明浩

第4学年社会「第2章『住みよい暮らしをつくる』」

研究内容（1）目標と評価の一体化について

右図のように、単元の目標を設定後、目指す子どもの姿をより具体化して評価規準を設定しました。単元で目指す子どもの姿がより明確になることで、教師は見取りの精度が高まり、子どもは単元のゴールが明確になると考えます。授業者からも、自身の授業改善や子どもの学習改善につながったという声が聞かれました。本単元では、指導案上に評価規準設定の過程を示しています。ぜひ、御活用ください。



研究内容（2）指導計画・評価計画について

研究内容（3）個別最適な学び、協働的な学びについて

研究内容（2）及び（3）については、関連性が強いので、「指導計画（研2）」の「つかむ→調べる→まとめる・生かす」流れと関連付けながら御紹介します。右図は、本単元の全体像を示しています。

「つかむ」の段階では、本単元での学習問題及び「自己課題」を設定します。具体的には、「住みよい暮らしのために自分たちには何ができるか。」という課題になります。この自己課題を単元を通して、繰り返し意識付け、「まとめる・生かす」の段階で再度問い返すことで、個々の興味・関心に応じた課題解決策が生み出され、「学習の個性化（研3）」が図られると考えました。

また、「調べる」の段階では、子どもが自分に合った方法を考えながら情報収集を行ったり、子どもが自身の学習状況を把握するためにミニテストを行ったりしました。そうすることで、子どもは自分自身を客観視しながら、自分に合った学習方法を選び、学びを進める「指導の個別化（研3）」が図られると考えました。教師は、このような個々の学習活動が行われるからこそ、子ども一人一人の学習状況が見えやすくなり、「形成的な評価（研2）」の充実につながると考えました。

単元を通して、一単位時間の中で他者と意見を交換し合う時間を繰り返し設定しました。そうすることで、子どもは徐々に学習活動に慣れ、必要に応じて他者と関わろうとする「協働的な学び（研3）」につながると考えました。



心に残る授業

その88



上川教育局義務教育
指導班指導主事
久保田 竜 平

「どうしてその場面を選んだの？」先生のその一言で学級にいる子どもたちが一斉に互いの考えを伝え始めました。これは、私が参観した小学校第一学年の国語科の授業の一場面です。

本単元は、「スイミー」と『おはなしどうぶつえん』をつくって、本をしようかしようかという「読むこと」領域の二つの題材を組み合わせて資質・能力を育成する構成となっていました。指導計画では、「校長先生を元気にするために自分が選んだ『勇気が湧く本』を紹介する」という言語活動を通して、「スイミー」を教材とする学習で身に付けた資質・能力をもう一つの題材で活用することをねらいとしていました。

本時では、子どもたちが、スイミーの物語から「勇気が湧く場面」を見付けるために、場面の様子に着目したり、スイミーの行動を想像したりしながら、「勇気が湧く場面」についてグルジャムボードの付箋機能を使って「あれかな?」「これかな?」と試行錯誤しながら粘り強く考えていました。

ある子どもが隣の友達に「私はここで勇気が湧いたよ」と伝えたところ、隣の子どもも「僕はここだよ」と反応し、自然に対話が始まりました。この時、先生が投げ掛けたのが冒頭の『子どもたちの考えを深める』問いです。この一言で、子どもたちは、更に考えを巡らせ、場面の様子やスイミーの行動を基に、選んだ理由を自分の言葉で伝え合っていました。

振り返りでは、「友達と話をして、スイミーの勇気が湧く場面を見付けることができた。」や「次は、僕が選んだ本で、勇気が湧く場面を見付けて、校長先生に紹介したい。」と話すなど、子どもたちが自らの学びを実感している様子が伝わってきました。

後日、授業者から「子どもたちは、自分で選んだ本から、勇気が湧く場面を考え、全員が校長先生に紹介することができました。」と教えていただきました。

子どもたちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けるためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められています。

今回の授業では、子どもたちが主体的に学び、仲間や先生との対話を通して、学びを深める姿が心に残りました。また、子どもたちが、身に付けた資質・能力を生かし、別の題材の学習においても力を発揮したことは、今求められている学びの姿だと感じました。

ICT実技研修講座レポート

当センターのICT実技研修講座では、授業や校務での効果的なICT機器の活用を目的とした7講座（各講座2回ずつ、計14回を全講座半日日程で実施）を開講しています。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大による行動制限が緩和されたこともあり、各講座ともたくさんの先生方に受講いただいています。

エクセルに関する講座は、「初級編」「中級編」「クラウド活用編」の3講座を開講しています。「初級編」「中級編」では、初歩的な数式や関数の使い方、VLOOKUP関数等の応用的な使い方、簡単な会計簿の作成等について、「クラウド活用編」では、アンケート等で広く使われるようになったFormsによるアンケートの作成や、データのエクセルやスプレッドシートによる集計、分析する内容となっています。

プログラミング教育に関する講座は、小学校プログラミング教育について、目的やプログラミング的思考等の理論研修、Scratchでのプログラミング、micro:bitの操作等、授業で活用できる内容です。

タブレットPCに関する講座は3講座を開講しています。「入門編」は、基本的な操作方法やアプリの特徴、Zoomを使ったりリモート会議の開設や参加の仕方など、「授業活用編」は、児童生徒がタブレット

に触れながら主体的に授業に取り組むことができ、すぐに実践できる内容で、多くの先生方から御好評をいただいております。また、「校務活用編」は、タブレットPCやクラウドを活用して校務の効率化を図ることを目的とし、様々なアイデアを学ぶことができます。今後益々タブレットPCの有効活用が期待されておりますので、より多くの先生方に御活用いただければ幸いです。

なお、ICT実技講座とは別に、当センターの出前講座でもICTをテーマにした講座を実施しています。次年度もたくさんのお申込みをお待ちしています。



上川教育研修センター

教育講演会

と き 令和6年1月11日（木） 12:50～14:30
 （開講式 12:50 講演開始 13:00）

※当初の予定から変更しています。

ところ 上川教育研修センター
 ※Zoomによるオンライン配信も行います

演 題

「令和の日本型学校教育の構築」
 ～主体的、対話的で深い学びの実現に向けて～（仮）

講 師

國學院大學人間開発部初等教育学科 教授
 元：文部科学省初等中等教育局視学官

た むら まなぶ
田 村 学 氏



【講師紹介】

公立・国立小学校教諭，教育委員会指導主事を歴任し，文部科学省・国立教育政策研究所教科調査官を経て，2015年4月より文部科学省初等中等教育局視学官を担当。2017年より現職。

【主な著書】

・東洋館出版社

「深い学び」

「カリキュラム・マネジメント入門 『深い学び』の授業デザイン。

学びをつなぐ7つのミッション。」

・明治図書出版

「平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 総合的な学習編」

「平成29年版 小学校新学習指導要領の展開 総合的な学習編」

「平成29年版 小学校新学習指導要領の展開 生活編」

・ぎょうせい

「平成29年改訂 中学校教育課程実践講座 総合的な学習の時間」

「平成29年改訂 小学校教育課程実践講座 総合的な学習の時間」

教育界には課題が山積しております。ぜひ「教育講演会」に御参加いただき，お一人お一人が抱える課題の解決に努めていただければと考えております。多数の皆様の御参加をお待ちしております。

i P a d 無料貸出しの御案内

現在、上川教育研修センターには、計 10 台の i P a d があります。また、研修センターは館内無線 LAN 環境が整っており、無料で数十台の P C 等が接続できるアクセスポイントを設置しております。

当センターを利用した各種講座や各研究団体研修会等において、タブレット P C を用いた内容で実施してみたいかと思いますが、積極的に御活用ください。

また、各学校や各種研究大会などに無料で i P a d を貸出いたします。校内研修での利用や研究授業などに御利用いただければと思います。なお、I C T 実技研修講座での利用予定がある場合や、出前講座、一般講座等での活用予定がある場合は貸出しできませんので、御了承ください。

※貸出しにつきましては、事前に電話にて御連絡ください。

※破損や紛失の場合は弁償していただくことになります。

各種資料の御活用を！

当研修センターの 1 階には、各種教育雑誌を、3 階には、道内はもちろん全国各地の教育関係広報紙や研究紀要、教育雑誌のバックナンバーなどを保管しています。蔵書資料は貸出しも行っていますので、ぜひ御活用ください。なお、所蔵資料リストは当センター Web サイトからも御覧いただけます。



上川教育研修センター Web サイト紹介 & 受講後調査のお願い

<http://kami-cen.hs.plala.or.jp/>

当研修センターでは、研修内容を勤務先において活用していただくことを願い、一定期間においてアンケート調査（受講後調査）をお願いしています。アンケート結果は、講座の成果を推し測るための貴重な資料として活用しております。趣旨を御理解の上、御協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、受講後調査の御回答に当たっては、当研修センター **Web サイト上で入力**してください。

※この用紙は再生紙（古紙 70 %）を使用しています。

発行日 令和五年十一月一日
発行 上川教育研修センター
〒〇七〇—〇〇三六
旭川市六条通四丁目
電話（〇一六六）二四二五〇一
印刷所 伊東義晃
有限会社岡本印刷



「受講後調査」

↑コードを読み取ると、アンケート入力ページに移動します。